資料 1-2

令和 7 年度（2025 年度） 博物館事業概要

1　重点項目について

（1）館内リニューアル 別紙1 別紙2

・アンケート調査

一般市民対象

調査期間　令和7年（2025 年）9月1日～9月 30 日
調査対象　市内在住 18 歳以上の市民 2,000 人
抽出方法　無作為抽出
回答方法　郵送または QR コード読み取りによる WEB 上での回答
回答者数　710 人（回答率 35.5%）

児童・生徒対象

調査期間　令和7年（2025 年）7 月中旬～8月下旬
調査対象　小学校 5 年生 533 人、中学校 2 年生 827 人
抽出方法
「JR以南地域」、「豊津・江坂・南吹田地域」、「千里山・佐井寺地域」、「片山・岸部地域」、「山田・千里丘地域」、「千里ニュータウン地域」の6つの地域から調査協力校として小学校・中学校から各1校を抽出。
回答方法　上記協力校にアンケートを配布し回収。
回答者数　小学生 451 人（回答率 84.6%）、中学生 723 人（回答率 87.4%）

教員対象

調査期間　令和7年（2025 年）9月上旬～9月 30 日
調査対象　市立小学校学校教育研究会社会科部教員
抽出方法　市立小学校学校教育研究会社会科部教員全員 35 人
回答方法　上記協力教員にアンケートを配布し回収。
回答者数　32 人（回答率 91.4%）

・現在の常設展示は、分野によって偏りがあることや開館から 30 年の研究成果が反映できていません。また、展示解説も難しく、わかりにくいことが課題でした。
・上記の課題を解決するために、市民ニーズ調査アンケートの結果をふまえ、展示のコンセプトは、「すいはくへ行けば、吹田のことがよくわかる」に定め、展示解説文は、「読める」から「わかる」ようにすること、これまで実施してきた「さわる月間」の成果を体験型展示として取り入れることなど、基本的な方針を定め、リニューアル内容について学芸内で調整し、新たに展示原案を作成しました。

・目標としていた課題整理は達成したため、評価点は A としました。

（2）資料所在確認調査 別紙 3-1 別紙 3-2

・『吹田市史』編纂時に調査・使用された資料について、既存目録および市史の記述に基づき資料所在確認リストを整理しました。

・古文書資料を中心に、約71 件（約 20,000 点）の所在確認先をリスト化し、令和 8 年度から令和 11 年度までの市資料所在確認調査計画を策定しました。

・調査は旧町村単位（吹田村、千里村、岸部村、豊津村、山田村、新田村（下新田））で段階的に実施することとし、令和8年度は旧岸部村域を対象として、調査を進める計画を立てています。

・また、調査成果を将来的に新たな市史編纂の基礎資料として活用する方向性を整理した。

・目標していた課題整理は達成したため、評価点は A としました。

（3）市民が集う博物館づくり

・当館の市民参画のうち、「むかしのくらしと学校ボランティアの会」、「すいはく自然発見隊」はメンバーの高齢化が進んでいます。また、新規登録者が少なく、登録しても定着しないことが課題です。

・上記のグループは展覧会の企画から運営までを活動の中心としているため、大規模修繕中（休館中）の活動についても検討していく必要があります。

・学芸研究会では、令和 8 年度から大規模修繕を経て再オープンする令和 12～13 年度までの、両グループを含むボランティア制度の方向性について話し合いました。

・視察は行いませんでしたが、大阪市立自然史博物館で開催の「第3回友の会サミット」に参加するなどして他館の事例を調査しました。

・目標していた課題整理は達成したため、評価点は A としました。

2　その他（基本的な活動）

（1）展示活動

① 令和 7 年度は、博物館実習展に体験資料を取り入れ、「大学生による館蔵品展×さわる月間」としました。

② スポット展示のうち「明かりの道具」は小学校の団体見学が多い時期に合わせ、12 月から 4 月初旬まで開催しました。

③ その他の展示「令和 6 年度特別企画『むかしのくらしと学校～すいたのむかしからいまへ～』展をふりかえる」は、館内の授業プログラム、出前授業、子どもたちやボランティア活動の様子を写真や感想文で構成したパネルを展示しました。

（2）教育普及活動

① 中学校のキャリア教育で学芸員の仕事を紹介する機会が今年もありました。

② 職場体験では、昨年度に引き続き、教育支援教室の中学生を受け入れました。

不登校生徒の場合、中学校が派遣する職場体験の機会がないため、博物館と教育センターが連携することで実現しています。

③　吹田かもフェスタ 2026 連携企画として講演会と紙芝居上演を行いました。

④　秋季特別展では、過去に西村公朝展の図録はたびたび発行してきたので、十大弟子像だけを並べたリーフレットを作成しました（裏は年表）。

（3）連携・協力事業

①　吹田地学会との共催でピンク火山灰の見学会と講演会を開催しました。これがきっかけで夏季展示のこどもデーでもイベントを開催してもらいました。

②　特別企画展開催中の団体見学は 19 校、出前授業が 11 校、計 30 校でした（市内小学校 35 校）。昨年は団体見学 22 校、出前授業が 10 校、計 32 校でした。

③　関西大学社会基盤情報学研究室が実験的に常設展示室の新芦屋古墳などを 3D 計測しました。合成したデータの活用についても検討していく予定です。

④　北大阪ミュージアムネットワークの新たな取り組みとして職員交流会を行い、展示やバックヤードの見学、意見交換をしました。今後も年 2 回開催する予定です。

⑤　エキスポシティで開催したエキスポ文化祭に出展しました。ぬりえ、缶バッジづくり、貫頭衣などの衣装体験を持っていきました。

（4）調査・研究活動

①　旧吹田村の亘家から資料調査の依頼があり、市史編纂室で調査した文書群が確認できました。整理を進め、寄贈予定です。

（5）資料収集活動

①　春季特別展開催により、万博関連資料の寄贈の申し入れがありました。

②　昨年度に引き続き、西村公朝作品と関連資料を寄贈により収蔵しました。

（6）資料の整理・保管・修復

①　使用していた燻蒸ガス（エキヒューム S）が製造停止となったため、新規資料の燻蒸は二酸化炭素で行いました。

（7）資料の貸出・特別利用

①　ロビーに展示している公共住宅型流し台（KJ 流し台）について、開発者の再現ドラマのロケ地として撮影がありました。読売テレビの「NIPPON チェンジャーズ」という番組で 2 月 1 日に放映されました。

（8）管理運営

①　吹田市広報課の YouTube チャンネル「吹ちゅ～ぶ」で博物館が紹介されました。